

釜石市立鶺住居幼稚園の現状と今後の在り方について

1 鶺住居幼稚園再建の経過

東日本大震災により鶺住居幼稚園は全壊しました。鶺住居地区での「保育に欠けない児童」の受け皿として、平成26年4月に仮設園舎で保育を開始し、平成29年4月に鶺住居幼稚園を再建しました。現在、鶺住居幼稚園は当市で唯一の市立幼稚園です。民間幼稚園はこども園化しています。

なお、東日本大震災により全壊した鶺住居保育園は、平成25年6月に再建しました。

2 鶺住居幼稚園の現状

鶺住居幼稚園は、幼児教育に関わる指導方法等の研究に取り組み、その成果を他の幼児教育施設に広めるなど、当市における幼児教育の研究的な役割を担ってきました。

しかし、令和6年4月時点の園児数が、年長児(5歳児)3名、年中児(4歳児)2名、年少児(3歳児)0名の合計5名と少数であり、多様な園児との関わりの中で、幼児の健やかな成長を育むということについて十分な環境とはなっていません。

3 園児確保に向けた検討と今後の見通し

令和4年8月、鶺住居地区の幼児がいる家庭を対象に実施したアンケート調査結果では、就園していない家庭のうち、幼稚園への入園を希望するとの回答が一定数(5件/有効回答数11件)ありました。また、入園にあたり、給食を希望する親が多いことも分かりました。しかし、鶺住居幼稚園へ給食センターから給食を提供するためには、給食センター内の保管機の場所の確保や人的体制の整備、園舎の改築が必要となり、実現は困難です。

保護者の就労状況等により保育園及びこども園を選択する家庭が多く、幼稚園のニーズが低い現状と、栗橋地区及び鶺住居地区の出生者数から、今後も鶺住居幼稚園への入園希望者がある程度確保できる見通しがたたない状況となっています。

4 市立幼稚園の役割と社会の変化

これまで市立幼稚園が果たしてきた役割として、次のような点が考えられます。

- ・地域に根ざした幼児教育施設として、入園を希望する全ての幼児の教育を保障する。
- ・幼児教育に関わる指導方法等の研究に取り組み、その成果を他の幼児教育施設に広めるなど、幼児教育の研究的な役割を担う。
- ・公的施設として、利用しやすい料金設定。
- ・特別な支援が必要な子の受け入れ。

一方、子ども・子育て施策の充実などによって、幼児教育をめぐる環境に次のような変化がみられます。

- ・平成29年に告示された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園

教育・保育要領では、子どもに身に付けさせたい資質・能力を共通化して明確にするなど整合性が図られ、要領等に基づいた幼児教育が実践されている。また、幼児教育アドバイザーが助言・指導を行っており、教育の質の確保ができています。

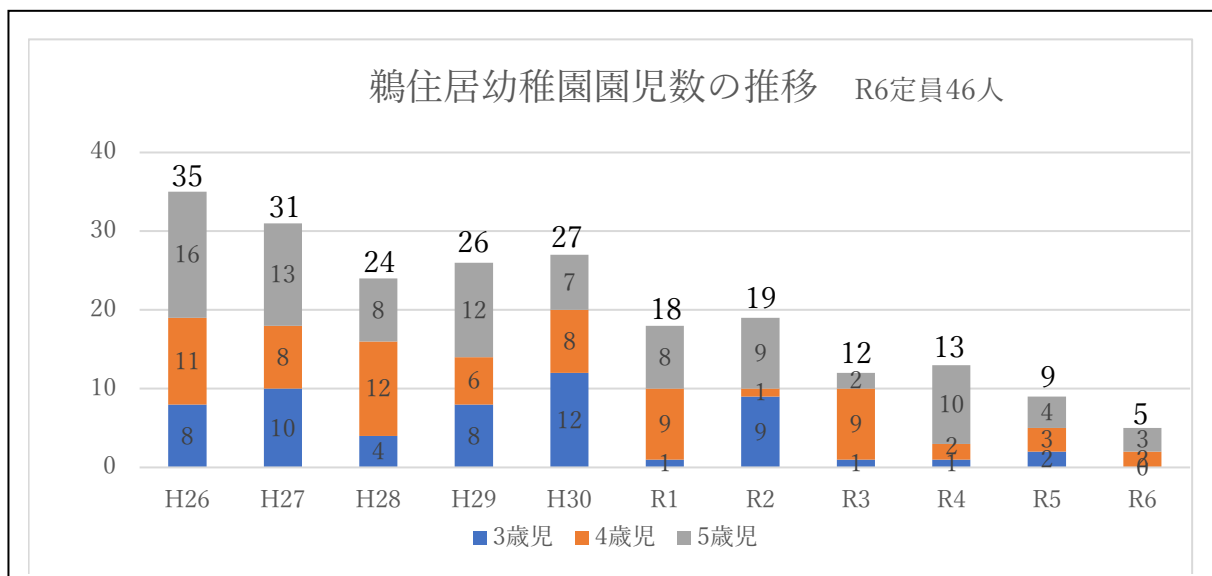
- ・令和元年度からの保育料の無償化（3歳児から5歳児）。
- ・特別な支援を必要とする子の増加。

これらのことから、幼稚園やこども園、保育所といった施設の種別を問わず、幼児教育を受ける環境は整っており、保育料の面からも公立幼稚園の優位性はなくなっています。一方で、特別な支援が必要な子の受け入れと特別支援教育の知見を有する担い手の育成など、希望する幼児が適切に幼児教育を受けられる態勢の確保が求められています。

5 鶉住居幼稚園のこれから

当市の少子化が一層進むことが予測される中、幼稚園の利用ニーズが低いこと、また、市の財政が厳しい現状もあり、鶉住居幼稚園を継続して運営することは、難しい状況にあります。このような状況を踏まえ、さまざまな方から意見を聞きながら、鶉住居幼稚園の今後の在り方について検討を進めてまいります。

■鶉住居幼稚園 園児数の推移



■釜石市の出生数

(単位:人)

	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
釜石市	147	135	140	117	125

■幼児教育に関するアンケート結果（鶯住居幼稚園 令和5年11月実施）

≪保護者≫

少人数で良かったと思う点	多人数のほうが良いと思う点
<ul style="list-style-type: none"> ・先生が目が行き届いているので、何かあった時はすぐに対応してもらえる。(6) ・年齢に関係なく、みんな仲良く遊んだりできる。(3) ・子どもがのびのび遊び、学べる。(1) ・小規模だからこそ密に行事が行える。(1) ・行事等で一人一人が主役のような感じがする。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での行動が身につけやすい。(3) ・小学校入学後の集団行動がスムーズに行える。(2) ・友達との関わりがいっぱいできる。(2) ・コミュニケーション能力の向上が期待できる。(1) ・PTA役員が偏らないこと。(1)

●園に伝えたいこと

- ・鶯住居幼稚園をなくすことで釜石東部地区の保育所が鶯住居保育園になってしまうのはどうかと思います。園児が減少する原因の改善、例えば給食を出す、市のスクールバスを使わせてもらうなどができればいいのかな、と思います。教育の質が幼稚園はとても良いと思うので、この良さをなくしてしまうのは、もったいないと思います。

≪教職員≫

少人数教育のメリット	少人数教育のデメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・園児一人一人の発達の姿を丁寧に捉えながら、遊びや活動、生活の場面において、個々に応じた適切な援助を行っている。 ・クラス担任だけでなく、職員全員が共通理解を図りながら園児とかわかっている。 ・異年齢児とのかかわりを活動に応じて設定することもあるが、遊びや生活の場面で子ども同士が自然に関わる姿も多くみられる。 ・排泄等の生活習慣が身につけていない3歳児は、個々の姿に応じたきめ細やかな援助を行うことで比較的スムーズに生活リズムを身につけている傾向がある。 ・園児だけでなく家庭連携についても、保護者の姿に応じた丁寧な対応が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団としての育ちを考慮した場合、特に5歳児にとって就学前に互いに切磋琢磨しながら、育ち合う場面が限られてくる。遊びや行事への取り組みの中で話し合ったり、いろいろな子ども達と触れ合いながらトラブルを解決していったりする機会が少ない。

●園の運営や学級運営上、園児数が少ないことにより困っている点

- ・来年度は更に園児数も減るので、年長同士の話し合いの場や気の合う友達だけでなく、様々なトラブルの場面を経験させたいが場の設定等が限られてくる。
- ・保護者の方々はとても協力的で、行事等の際には全員で取り組んでいただいている。しかし現在の状況では来年度以降の行事等の取り組みや運営について、更に工夫をしながら取り組んでいく必要性を感じている。

●その他

- ・幼児の成長の節目となる機会を今後も大切にしていきたいと思うが、新入園児の入園希望者がいない現状の中で、互いに育ち合う子ども達の成長の姿について不安を感じる部分がある。